

支部だより

～中国四国支部，6年の歩み～

桐野 豊

徳島文理大学・香川薬学部

中国四国支部設立の経緯

平成18年(2006年)の暮れの頃だったでしょうか、同僚の伊藤悦朗教授が「大変です!」と(言われたかどうか定かではありませんが、そのような雰囲気)で、私のオフィスに来られました。聞くと、美宅茂樹会長から、「四国支部を設立し、平成20年度の年會を徳島で開催してほしい」というお話があったということでした。伊藤教授も私も徳島文理大学香川薬学部に2006年4月に着任したばかりでしたが、私は九州支部長として第28回福岡年會(松田博嗣年會実行委員長)に参画した経験や、規模が数倍大きい薬学会年會(福岡年會)にも関与した経験があり、伊藤教授も第43回札幌年會(2005)に関与したばかりであったので、お引き受けしても大丈夫という気持ちはありました。また、徳島市は阿波踊りに多数の観光客を受け入れるためあってホテルの収容数も十分にあること、さらに、実際に1987年に生物物理学会第25回年會(年會実行委員長=安藝謙嗣・現徳島文理大学教授)が開催された歴史もあることから、お引き受けしても大丈夫と考え、四国支部を設置する作業に取り掛かりました。まず、四国の生物物理学会會員名簿を学会本部よりいただいて、それらの方々にお声がけして、平成19年(2007年)3月6日に徳島文理大学徳島キャンパスに集まっていた有志により、生物物理学会四国支部設立発起人會を開催しました。そして、四国支部設立大會を平成19年6月16日(土)に徳島文理大学香川キャンパスで開催しましたところ、参加者は23名で、19題(口演)の研究発表がありました。また、次期会長の曾我部正博教授が駆けつけてくださり、四国支部設立に対する祝辞を述べてくださいました。しかしながら、大會期間中に開催された第1回四

国支部總會において、今後は四国だけでなく中国地方の會員とともに中国四国支部としてやっていくべしという意見が多数出されましたので、この大會を中国四国支部設立準備會と位置付けて、次年度までに中国四国支部を設立することで意見の一致を見ました。

第1回中国四国支部大會と学会第47回年會

平成20年(2008年)5月10日(土)、11日(日)に高知市の高知大学朝倉キャンパスで、大西浩平教授(高知大学)のお世話により中国四国支部設立大會(第1回支部大會)が開催されました。参加者51名で、一般講演30題と曾我部正博会長の基調講演がありました。この大會で、開催時期は5月頃の土、日曜日、参加者50～60人、約30演題(口演)、第1日の夜に懇親會、大會期間中に總會開催というスタイルができ、以後踏襲されてきたように思います。研究発表が口演であることと、比較的小人数の参加者が研究発表と懇親會を通じて親しくなれることから、多くの参加者が他の学会等では得がたい雰囲気を楽しんでいるように思います。第1回支部總會で、平成21年度の第47回年會の開催を中国四国支部が引き受けるということが正式に決定されました。

平成21年(2009年)10月30日(金)～11月1日(日)に、徳島市の徳島文理大学徳島キャンパスとアスティとくしま(徳島県コンベンションセンター)にて、第47回年會が開催されました。この年會で記録に残る点は、学会のグローバル化の方針に沿って、年會の言語を英語とすることを本格的に実行したことです。また、記憶に残る点は、懇親會のアトラクションとして、悠久連という有名な連の踊り手たちとともに全員で踊った阿波踊りであったことでしょう。

第2回中国四国支部大會から現在まで

平成21年度の中国四国支部大會は、上記の年會開催があったため、休會となりました。第2回中国四国支部大會は加茂直樹松山大学教授のお世話で平成22年(2010年)5月8～9日に愛媛県松山市の松山大学にて、第3回支部大會は平成23年(2011年)5月14～15日に楯真一広島大学教授のお世話で広島大学東広島キャンパスにて開催されました。

第4回中国四国支部大會は、平成24年(2012年)6月2日(土)～6月3日(日)に山口大学吉田キャンパス(山口市)にて、右田たい子教授(山口大学農学部)のお世話により開催されました。参加者は49名(一般會員27名、学生会員15名、非會員学生7名)で、演題は時間の関係で遠慮してもらったものも出た結



2012年6月2～3日（山口大学）第4回支部大会参加者

果、28演題でした。

第4回支部大会では、島根大学と鳥取大学から初めての参加があり、中国四国支部を構成する9県のうち、高知県を除く8県からの出席者がありました。支部大会としてのこの広がり、支部の発展の指標と考えられ、大変うれしく思いました。中でも特にうれしかったことは、山口大学理学部の院生・学生7名の参加があったことです。このように、毎年新しい土地で大会を開催することにより、その地区での知名度が上がり、新しい参加者が得られることは、学会員の増加につながり得るものであり、喜ばしいことです。

今回の大会においても、生物物理学会らしく幅広い分野からの発表があり、専門よりやや離れた分野の発表に対しても積極的な質疑が行われ、穏やかな雰囲気の中でも活発な討論が交わされた充実した大会であったと、参加者から好評をいただきました。

大会の最後に開催された支部総会で、設立以来支部長を務めてきた私の退任を御認めいただき、次期支部長として、篠原康雄教授（徳島大学疾患プロテオゲノム研究センター）を選出しました。

これから

第5回支部大会は、岡山大学の会員（成瀬恵治、井

上剛、松浦宏治の諸氏）による実行委員会のお世話で、来る5月25日（土）～26日（日）に、香川県直島町のベネッセハウスにて開催されます。参加者は全員ベネッセハウス（およびつつじ荘）に宿泊することから、1日目の夕方の懇親会は、夜を徹した（？）合宿へと進行していくことが想定されます。本大会では、一般講演、曾我部正博教授（前会長）の基調講演に加えて、ワークショップも開催されます。また、今年度断続的に直島および近隣の諸島および高松市で開催されている「瀬戸内国際芸術祭2013」に参加のアーティストの数々の作品を、生物物理学に取り組んだ後に少し時間を割く贅沢ができるならば、楽しむことができます。

間もなく学会が法人化されますが、それに伴って、支部も従来通りというわけにはいかないであろうと推察されます。中国四国支部は小さな支部ではありますが、無視できない支部としてあり続けたいと思います。2013年度より、篠原康雄教授（徳島大学疾患ゲノム研究センター）が支部長に就任されて、これまで以上に活発な支部活動を推進して下さることと期待しております。これまでの支部会員の皆様のご協力と学会のご支援に心より感謝申し上げます。